

時事新報

過度の教育
 五十年來世界の文明諸國に於て各科の教育何れも大に世人の注意する所となり且その進歩をせしめしは歴史上に例を見ざる所なり早成の兒童に對する知識をせしめんとし之に強ゆるに非常の勉強耐忍を以てし貧民の子も富人の子も之を教ふるが爲めには書籍を授け其教師を雇ひ都て公費に依頼して其仕組備らざるのなま或る國にては其父母及び自身の諸否如何に拘らず法を以て公立學校の入学を強迫し讀書上の知見と兒童の腦中に充滿せしむるの人間の道徳身體智識の程度を改良するの最好方便なりと信じて疑はざるものあり斯くて年を経るに隨ひ兒童早年の學習に適當なる簡單容易なる學科は次第に繁雜に赴き其科目さへ次第に數多くありて遂には兒童が早成の數年間に修むべき科程も人間世界にあらゆる各科の知見を含有するに至りぬ世の中に教育の真意と其實價とを知る者の少なきは實に驚くに堪へたる事共にして蓋し世の父母たる者及び教育家の考にては幼者の腦髓に學問上の事理を注入するより多ければ後日一人として義務責任を負ふの感覺いよ／＼深んに至る可しと信するもの、如し世間の言に我々の死に臨み一錢を子孫に遺す能はざるもの、教育の事に於ては我々の能ふ所と盡したれば夫より以上の事に至りては子孫自ら之を爲すべしとは往々我輩の聞く所にして世の父母たるものは子孫教育の爲め終生勞役に辛苦して自らその快樂を損するものある程なるに教育の實際を見れば往々に實用に迂濶する學問上の事理と兒童の腦髓に注入する事のみと務め既又其成績の疑はしきのみならず却て有害の結果を見ること少からず若しも茲に人ありて日夜絶えず飲食して胃腸を満すものあれば其食物の過半は消化せずして胃病を引起すものとやらん即ちその食物が身體に養を與へずして却て之を衰弱せしめたるによるのみ若し之に反し飲食の量を減じ且つその度を節するときは胃中の食物悉く消化して其身の健康、疑ひあるべし今の教育法の豈に之に類することなからんや兒童は早成にして學校若しくは幼稚園に入り教育と稱する知見を得るの職業は就かしめらるゝ事あるが斯くの如くして腦髓に注入されたる知見の大半は固より之れを消化するの力なく恰も過度の食物と満しる胃腸と一般、一種の不消化病と雖もに至るもの多し左れば強迫の教育は人間の能力を強えずして却て之を弱ふるの結果を見るものにして西洋諸國の實例によるに強迫教育の下に成業したる優等の學生は却て實地の働きに乏しくして後年失職する者も多し日本に於ても亦必ず同様なるべし抑も強迫教育の仕組は獨り兒童の腦力と弱むるに止まらず身體を害するものと甚しきものにして蓋し學生が永く空氣の流通あらしき講堂に閉籠り運動をせずと極めて少なく且つ飲食の量ば／＼其度と失ふが如きは次第に健康を害する原因となり卒業の證書を得る間もなく肺病の爲めに夭折するもの少なじとせず而して女子教育の過度過度あるに至りては其健康と害すること男子よりも甚しきものあり過度教育の疑問は現に西洋諸國に於ても學者の苦慮する所にして要するに過度過度の教育と幼者の腦髓を注入するは大に誤れるものなりとの説、學者の間に勢力を得るに至れり而

して單に學問上の教育のみを受けたる者は實業家たる能はずとの説も亦一般の許す所にして若し二十一年乃至二十二歳に至るまで強迫注入の法によりて學生を教育するものとあらば過半は實業家たるの性質と失ふに至るべし故に歐米諸國にては其子の實業家たらん事を希望する者は其家の富めるにも拘はらず高等の教育を受けしめずして却て學者たるに縁の遠き實際上一般の知見を得せしむるに過はらず女子の教育も之と同様にし謂所高等教育を受くる者は社會の上流に位する少數の女子に過はらずして從來の經驗によるに高等の學校を卒業したる女子は唯その健康を害するのみならず之を簡易なる課程を修めたる者に比するより其養育母たるの資格に於ては却て欠くる所多しと云ふ畢竟今の世界の教育の局に當る者が子女の成後に關する實際の經驗と有せざるが爲めにして彼等精神の府にして且つ思想の源なる幼者の腦髓を見て以て鑛製の函となし幾多の物質と其中に塊充せんとし腦髓なるものは唯、顯微鏡を以て見るべし極めて微細なる纖維より成れる動物界中、最も微妙にして入込たるものにて之れを用ふることで度に過るときは酒は老朽したる護謄機機の如く其弾力と失ひて遂に廢物に歸するものたるを知らざる者なり元來教育上に心身の健康に關する事柄は實に肝要の問題にして各學校の管理は經驗ある醫士社會の支配に歸し之に任するに學校の衛生及び健康法に關する一切の全權を以てするも可なる程の次第にしてよの一事に就ては我輩は唯從來の醫士輩が定まらざる空氣の流通、身體運動の事のみを云ふにあらざるは其上に精神の衛生法其他腦力の堪ふべき勉強の度如何等を云ふものにして之を再言すれば學校課程の科目及び授業の時間等は全く經驗能ある醫士の權内に任せんとするものあり然るに我輩の聞く所によれば今の學校に於てこの事を行はるゝは殆んど絶無の有様にして現に東京に於ても幾多の經驗能ある醫士中、精神衛生の事に關し教育當局者の相談を受けたる者は曾て之をさしと聞けり左れば現今の教育の仕組に於て日々幾千の兒童に計るべからざるの害を與ふることは明白にして經濟上より之を考ふるも過半は實價を學問上の事理を兒童の腦髓に注入するは有害無益の事と云はざるを得ざるがかり

公團の櫻ヶ岡に新築せる列品館に於て開ける美術展覽會の一昨十日を以て其開會式を行ひしが當日は會長有細川宮の祝詞佐野常民氏等の答辭あり式終り會員の案内にて一同陳列品を一覽し次て茶菓の饗應あり至る終を告ぐは四時半頃ありし今度の展覽會は四月十日より五月十日までの由にて陳列品を分ちて五區となし第一區は書畫、第二區は彫刻、第三區は陶器、第四區は漆器、第五區は織物にして陳列品中古製品は明治以前の製作に係り新製品は明治十八年以後の製作にして中には十八年前のものも幾も優越するものは参考品として出したるもあり要するに此度の出品は此まで餘り衆庶の目に觸るざるものありて就中御手元よりの出品ある千鳥御香爐周の世の匠、麟盆、敵敵、其他大坂邊より出品せし奈良時代彫刻物等何れも頗る珍らしきものなるべし唯ぞ陳列品の未だ全く集らざるハ人々遺憾の有様なりしと當日は伊藤總理大臣黒田農商務大臣松方大藏大臣等も來會せし由なるが折悪しく降雨の爲先に格別の人出はなかりしと云ふ

メツケル氏の勢力、此程歸國せし陸軍大學校の御備たりし獨逸人メツケル氏は本國獨逸に於ても武官中非常有名なる人にして何れの國も軍人の昇進は皆當年限ありて容易に此期限内に昇進するを許さず獨逸は殊に軍律の嚴格なるにも關らず其大尉より少佐の位に昇るや僅々の年月にして擢せられし人にて昨今歐洲多事なるの際氏々天賦の器略と云ひ戰爭の經驗に富むと云ひ獨相ビスマルク公も末頼もしき軍人と思ひ居る程されバ氏の我陸軍大學校教授の任に當るや其教授方の規律正しき今度の參謀旅行中氏が計畫指揮せる意見の非凡なる我陸軍の武官として感服せしめし事少からず去れば近年我陸軍にては漸く獨逸軍制を取り用ふるの折柄氏の三年間の滞在は一層我軍人として獨逸の軍制に通ずると同時に頗る獨逸風を慕ふの念慮を深からしめたりと云ふ

高嶋技師 農商務五等技師高嶋米八氏は東北筋各鐵道の巡視として不日出發するよし

第一調馬隊の分廠 陸軍省にては今度趙町區内山下町の舊監軍本部の跡を第一調馬隊の分廠に充つる筈にて家屋の修築に着手したりと云ふ

滋賀縣商業學校の紛擾 同校にては過日來定期の試験を執行せしが此程漸く結了せしを以て去る四日卒業證書の授與をなさんとて同校長教員を始め同縣書記官及び其他の官吏も隨場し皆夫れ／＼設けの席に就たり其式場に於て一人の生徒は突然進み出て同校授業の體裁試験の方法等に就き滔々論辯し終りに同志者は寧ろ退校するの利あることと極言して其席を退きしより忽ち一場の紛擾となり折角の證書も或は受取らざるもありしよし元來同校にては近來何となく職員と生徒と之間關係ならざる所あるより斯る始末に及びたるならんといふ

福嶋師範學校生徒退校の理由 一時師範學校内の紛擾は流行物とあり東西各地に蔓延談を聞ざるなき有様なりしが其中にも福嶋師範學校の紛擾は甚しく生徒の退校を命ぜらる者數多ありし事の次第は當時の時事新報紙上にも記載せしが去る五日同校にては又候廿二名の生徒に退校を命ぜし由電報の儘面に之と掲載せしが今其理由を聞くに廿二名の内十六名は今度の大試験に落第せしものにて成業の見込なき者とし其餘の六名は

小學校訓導 場合に至る
 ○支那人移 院に於て
 所なるが近 するを得たれ
 二月廿九日 務委員の編
 たりとも今 如何なる事
 するの定め 住を禁する
 とあるは凡 假令へ諸外
 努力者ハ内 十七日合衆
 依り一旦合 へられたる
 六月七日の 月間に歸國
 千八百八十 を出立する
 定したる條 衆國內に入
 を以てレヤ 議案を實行
 を請求すべ を唱へ二日
 の雄辯者々 譲りて之を
 今日支那人 べく且つ近
 採用するの 不正と云ふ
 吐露し遂に たるよし

○製茶の審 一昨十日今
 委員として
 ○農業試験 餘名の生徒
 中よて本月 實業を傳習
 ○水産物試 け鹽漬魚類
 付捕鯨組士 鯨用に供せ
 ○東京電燈 次郎氏と共
 局の近傍に を増築し新
 附け且つ高 願しなりと
 ○馬商會社

○大藏省告示第四十二號
 本月抽籤ヲ以償還シタル租業公債元金ニ對スル現金ノ代リトシテ整理公債證書ノ交付ヲ望ムモノハ當該證書ノ裏面ニ第一國立銀行若クハ三井銀行本支店又ハ代理店ノ證明ヲ受ケテ來ル五月三十一日マテ日本銀行本支店又ハ代理店へ差出シ整理公債證書ノ交付ヲ請求スヘ

一起業公債證書ノ利子ハ二十一年三月マテノ利子ヲ付
 整理公債證書ノ利子ハ二十一年四月下半月ヨリ之ヲ付スルモノトス

但二十一年五月三十一日ヲ過キ前項ノ請求ヲナスモノハ其請求ノ翌月ヨリ利子ヲ付ス

明治廿一年四月十一日 大藏大臣伯耆縣方正義

○博士稱號 今度其筋に於て帝國大學の各分科大學長と始め在野の學士に博士の稱號を授與するとの事會て本紙上に記載せしが今又た聞く所に據れば今回同稱號を授與する學者は二十餘名にして其中十五名は已に内決したる由かれと其他は目下評議中ありといへり

○上野公園の美術展覽會 日本美術協會にて今度上野